

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	日常に美術を浸透させるアートワークショップ教室「小布施美術部」
事業主体 (連絡先)	松葉屋本店
事業区分	教育及び文化の振興に関する事業、地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	575,622 円 (うち支援金: 431,000 円)

事業内容

美術を通じて、日常の中でも作品を制作する時間に没頭したい、ものづくりをきっかけに新たなコミュニティをつくりたいという2つの思いから、「つくる場」としての美術ワークショップのイベントを平成22年から開催してきた。今までイベント企画としてやっていたものを定期的に事業化することを目的に、交流施設「小布施オープンオアシス」で開催する。実施にあたり「小布施美術部」を立ち上げ毎月一回アートワークショップを開催する。ワークショップという手法は、ものをつくることでの創作意欲の向上に効果があることに加え、子供がつくりはじめると、その親たちも一緒に参加する雰囲気ができ新たなコミュニティの形成にも繋がる。できた作品を町に飾ることで賑わいを起こし、これが展開していくことによって、みんなでアート作品をつくり町中のあちこちにひろげていくことを目指す。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

当初予定していたよりも多くの参加を得た。子供向きの企画はもちろんであるが、大人向きのデッサン教室でも、予定の倍以上の参加を得た。

また、作品を町に展示することで、季節感を演出し、自分も作りたいという美術に対する意欲も創出できたのではないかと思う。

町内には、展示や制作スペースとして利用できる場所もたくさんあり、つくるものに応じて活用できることがわかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

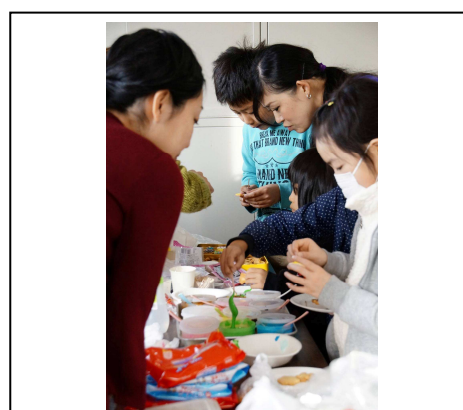
今年は、定期的な開催を目標とするため、久保田講師に年間を通してお願いをしてきたが、講師が変われば作品も様々なものに挑戦していけるので、次回は多様な講師を招いて実施していきたい。また、つくる場の環境も大事であり、作品に応じて静かに制作できる所、わいわい作業できる所などの環境整備にもつなげたい。また、常設的に展示も検討し、アートをもっと親しみのあるものにしていきたい。また、要望の多かったデッサン教室始める。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

【活動写真】



【目標・ねらい】

- ① 毎回15名以上の参加
- ② 毎月開催する
- ③ 町内に展示する
- ④ 様々な世代の参加を得る

※自己評価【A】

【理由】

予定していた以上の196名の参加者が得られた。また、難しいと思われたデッサン教室の評価が高く、毎月開催の要望も寄せられた。